# 「空のクレヨン」

三毛猫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

## 注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
「空のクレヨン」

【Ｎコード】
Ｎ０９１８ＢＡ

【作者名】
三毛猫

【あらすじ】
――滑り台にクレヨンで落書きしようとした幼い女の子とリストラサラリーマンのメルヘン？
【幼女】【クレヨン】【滑り台】のお題で書かれた掌編です。
以前ｔｅｘｐｏにて公開していました。現在ｐｉｘｉｖにても「三毛猫の三題話」の一遍として公開中です。

平日の真昼間から公園のブランコに座っているのはろくな大人じゃない。……まぁ、俺のことなんだが。まぁ、あれだ。要するに、世の中不況なのが全て悪いのだ。残暑がきついためか、俺のほかに公園にいるものは居らず、うろんな目で見られないのは幸いだった。

うだるような暑さの中、ひとり静かに、ブランコに座ってぼんやりとこれからのことを考えていると、不意に滑り台で遊ぶ幼女が目に入った。二歳か三歳か。ずいぶんと幼い。

周囲を見回したが、保護者らしき姿はない。幼女は何度も何度も、たった一人で登っては滑るのを繰り返しているが、ちっとも面白そうではない。なぜか滑るたびに首を傾げて、何か苛立つように地団太を踏んでいる。

「お嬢ちゃん、どうしたんだい？」

気になって、ブランコに座ったまま声をかけてみると、幼女はきょろきょろと辺りを見回して、それから俺に気がつくと、とてとてとこちらに向かって駆けてきた。

「にじがかけないの」幼女はそう言って、両手に握った七つのクレヨンを俺に見せた。

どうやら、滑り台に七つのクレヨンで滑りながら虹を描きたいらしいのだが、手が小さいので七ついっぺんに持つことが出来ず、両手にひとつづつ持って繰り返し滑っていたところ、最初に書いた線が消えてしまってどうしても七色の虹が完成しないらしい。

「おじちゃんが描いてもいいかい？」と尋ねると、幼女は少し考えてうなずいたので、数十年ぶりに滑り台に登った。さすがに大人にはちょっときつかったが、クレヨンを両手の指の間に挟んで、「やほー！」と後ろ手に虹を描きながら滑り降りた。

「どうだい、虹、描けただろう？」そう言って幼女の立っていた方を振り返ったがそこには誰もいなかった。ふと見上げると、雨が降

った後でもないのに空に大きな虹がかかっていた。

**（後書き）**

黒いお話ばかり書いてたのでちょっとメルヘンな感じにしようと努力してみたお話。

初っ端からリストラされたおじちゃんが出てくる時点でメルヘンじゃないかも……。

## ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

---

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0918ba/

---

「空のクレヨン」

2012年1月2日01時49分発行